

令和3年度 第2回 八千代市公共施設再編検討・検証委員会
会議録

日時 令和4年3月16日(水) 午前10時00分から午前11時35分まで

場所 市役所別館2階 第1・2会議室(事務局及び傍聴席)

開催方法 リモート開催(ZOOM)

議題 公共施設再編検討・検証委員会の運営方針について

出席者	【委員】	柳澤 要	委員長	(有識者 2号委員)
		齋藤 敦	委員	(有識者 2号委員)
		西尾 真治	委員	(有識者 2号委員)
		阿部 晃枝	委員	(市民 1号委員)
		鈴木 介人	委員	(市民 1号委員)
		那須原 和良	委員	(市民 1号委員)
		成富 健一郎	委員	(市民 1号委員)
		【事務局】	出竹 孝之	部長
	安原 信尚		次長	(財務部)
	渡邊 久貢		課長	(資産管理課)
	井手 潤一		主幹	(資産管理課)
	佐藤 靖則		主査	(資産管理課)
	齋藤 恒平		主査補	(資産管理課)
		糸賀 一将	主任主事	(資産管理課)

公開又は非公開の別 公開

傍聴人 3名

定刻、会議が開会し、資産管理課長の挨拶、出竹財務部長の挨拶、委員の紹介、配布資料の確認があった。

—————議題 公共施設再編検討・検証委員会の運営方針について—————

【柳澤委員長】

改めまして、おはようございます。

本日はこのオンラインでの開催ということで、私は2年間でこのようなオンラインでの会議をやっており慣れてはいるのですが、この委員会がオンラインであるのは新鮮な気がしております。

オンラインでの開催に慣れている方、もしくは慣れていない方もいらっしゃるかと思いますが、スムーズに進めていきたいと思っておりますので、ぜひご協力よろしくをお願いします。

本日の出席委員は7人となります。

本委員会設置要領第5条第2項の規定によって、委員の半数以上の出席に達しておりますので、ただいまから令和3年度第2回八千代市公共施設再編検討検証委員会を開催したいと思います。

それでは早速、議事に入ってきます。本日の議題は「公共施設再編検討・検証委員会の運営方針について」となっております。

事務局から議題の説明の方、よろしくをお願いします。

【事務局（佐藤主査）】

初めに、本日の議題に係る背景と、委員の皆様にご議論いただきたい内容についてご説明させていただきます。

これまで、昨年9月に書面開催しました、今年度第1回の本委員会までは、従前の公共施設等総合管理計画の実施計画としておりましたアクションプランの取り組みにつきまして、評価・助言いただく形で本委員会を運営しておりました。

そのアクションプランにつきましては、現在、昨年度末に策定いたしました個別施設計画に移行しております。

そのため、来年度以降の本委員会におきましては、個別施設計画に係る取り組みについて評価・助言をお願いするにあたり、本日はその対象とする事項等につきましてご意見をいただきたいと考えております。

それでは、まず資料1についてご説明させていただきます。

本計画につきましては、従前のアクションプランに代わる実施計画として、昨年度末に計画期間を30年間として策定し、4年ごとに見直しを行いながら取組みを進めていくこととしております。

既に委員の皆様には、昨年度末の策定の際に送付させていただいておりますので、今回の

議題に関わるポイントに絞って、改めて確認をさせていただきます。

それでは5ページをご覧ください。全国的な傾向と同様に、本市におきましても公共施設の多くは老朽化が進み、今後、改修等に多額の費用が必要となり、その財源の確保がますます厳しくなると予想される中、本計画では、改修等に係る将来コストについて幾つかの試算を行っております。

まず、ここでは今ある施設を減らすことなく、このまま維持し続け、築30年で改修・築60年で建替えをする場合の試算を行っており、30年間で総額1,788億円。年平均59.6億円の費用を要し、過去の実績値の23.8億円と比較いたしますと、2.5倍の乖離がある結果となっております。

この乖離への対応といたしまして、本計画では、まず今ある施設や建物を長期にわたり、安全・安心に使用していることを前提として、長寿命化を推進することとしております。

次に8ページをご覧ください。ここでは、長寿命化を推進した場合の試算を行っております。

先ほどの試算では、築60年で建て替えることとしておりましたが、ここでは、定期的な改修を行いながら長寿命化を図り、築80年で建替えることとしております。

試算結果では、30年間で総額1,008億円。年平均33.6億円で、過去の実績値23.8億円と比較いたしますと、1.4倍の乖離となり、先ほどの試算結果の2.5倍の乖離からは縮減となりますが、更なる対応が必要となります。

そのため、本計画では長寿命化の推進と併せまして、集約化・複合化等による公共施設の総量削減等についても対応方針としております。

このことを踏まえまして、総量削減等に向け、12ページ以降におきまして、地域ごとに中長期的な各施設の今後の方向性を示しております。

また、24ページでは、長寿命化に向けて直近5年間の保全計画を示しております。

引き続き資料2をご覧ください。こちらは個別施設計画の運用にあたり作成しているものになります。

先ほどご説明させていただきましたとおり、計画書の中では各施設の中長期的な今後の方向性や、直近5年間において保全計画の対象となる施設を示しており、その運用にあたりましては、別途、取組み内容を作成し、毎年度見直しを行いながら進めていくこととしております。

また、計画の素案に対して、委員の皆様にご意見をいただいた際に、「直近5年間についてはより具体的に示していくべき」といったご意見や、以前より従前のアクションプランの構成・見やすさなどに対するご意見をいただいておりますことを踏まえまして、このような形で整理作成させていただいております。

内容といたしましては、施設の新設・建替え・統合・廃止・跡地活用などのほか、長寿命化改修や安全安心のために早急に対応する必要がある部位改修などについても掲載しております。

今後は、この各種取組内容について、毎年度見直しを行いながら取り組みを進めていきたいと考えており、来年度以降の検証・検討委員会におきましても、この各種取組内容をもとにご意見等いただきたいと考えております。

しかしながら、各種取組内容に記載されている案件のすべてに、評価・助言をいただくことは、案件数や案件の性質上、現実的ではないと考えており、本委員会で取り扱っていただきたい内容につきまして、事務局案といたしまして資料3のとおり考えております。

資料3をご覧ください。事務局案といたしましては、資料2の各種取組内容のうち、評価・助言の対象とする事項については、(1)から(7)を想定しております。

内容といたしましては、新施設の建設や建替え、統合廃止、跡地活用といった公共施設の総量に関わる事項などとなっております。

なお、資料2の各種取組内容から除外している事項といたしましては、計画的に推進していくこととしている長寿命化改修や、雨漏り等の緊急的に対応する必要がある部位改修など、安全・安心な施設運営のため、市として適時適切な対応をとっていくべき事項となります。

本日は、資料3でお示ししている内容を踏まえまして、本委員会の来年度以降の運営について、ご意見をいただきたいと考えております。長くなりましたが、説明は以上となります。

【柳澤委員長】

はい、ありがとうございました。

それでは、これから委員同士で議論を行っていききたいと考えておりますが、今の説明について何か確認しておきたいことはありますか、よろしいですね。

事前に事務局側に意見をいただいている方もいらっしゃると思いますけども、お一人ずつご意見を伺って、その後に全体的な意見交換をしていければというふうに思っております。

また、地元の委員の方もいらっしゃる中で、個別の案件について細かくご意見がある方もいらっしゃると思いますけど、なるべく全体的な方針や進め方等についての意見にしていただければいいかなというふうに思っております。それでは、順番に齋藤委員からお願いできればと思います。

【齋藤委員】

よろしく願いいたします。

私が見て感じていたのが、前回のアンケートにて、全体的な流れにおける直近5年とかでまとめた方が良かったといった中でこういった資料が出てきているかなと思うのですけれども、今後20年とかそれぐらいの中での全体的な改修などの計画一覧を、まず施設ごとに作成し、その資料をとりまとめ、そして、学校等の施設ごとで工事をやろうとしたときに、同じような工事が他で被りそうであれば、同時で行うなどといった形で進めていければ、費用の

削減に繋がるのではないかなと思っています。

【柳澤委員長】

ありがとうございました。

本来であれば建設の段階、それこそ計画企画の段階で施設の大体の寿命を想定して「この段階でこういう工事や改修を入れて」など、当然設備はもうちょっと寿命が短いと思いますが、躯体やその内装なども合わせながら長期的な計画を初期から立てるといようなご提案かなと思います。

うまく全体的な支出のバランスがとれるように、大体50年や100年のスパンで計画していくのが、本来のファシリティマネジメントだと思いますけども、既に緊急事態になっている施設もたくさんあると思いますので、今更といった感じではあります。

事務局から何かそれに対して、コメントありますでしょうか。

【事務局（佐藤主査）】

今回、資料2の各種取組内容で言いますと、小中学校の長寿命化改修ということで、No. 1からNo. 8にて計画的な予防保全的について位置付けさせていただいております。

ここでは直近5年間の計画を示させていただいていますが、個別施設計画自体の計画期間である30年間を見通した上で、順次、計画的な改修を行う予定としておりますので、齋藤委員がおっしゃっていただいたように、将来を見据えて無駄な改修がないように進めていきたいと考えております。

【柳澤委員長】

そうですね、今とりあえず5年ということですけども、実際それ以上の30年や50年ぐらいの、長期的なスパンに立った計画をきちっと策定するという必要があるかなと思います。

資料2における令和7年度から順次移行し、おそらく10年後や20年後には、かなり工事が集中する年度も出てくるのかなと。

そこが少し心配で、そこで財源とかはどうなっているのかとか、場合によっては工事の年度をずらしてうまく平準化できないほど増えてくる可能性もあるので、その確認を早めに行える方がいいと思いました。

齋藤委員ありがとうございました。また何かあれば、よろしくお願いします。

では次に西尾委員、お願いします。

【西尾委員】

まず、この計画自体に対する評価のようなことになりますが、今まで公共施設等総合管理計画とアクションプランに分かれていたものを一つに集約したのは、分かりやすくよい

と思います。

その中で、将来推計における事業費について、この計画通りにやっていけば、範囲内で収まるというところで、それを施設ごとの工程表に落としたという点は、非常に評価ができると思います。そこで、基本はこの計画通りにきちんとやっているかどうかを、評価及びチェックしていくということでよいと思います。

全体を示した上で、特に重要な施設ごとの個別の取り組み状況を取り上げて、評価していくという事務局の方針自体はよいと思います。

その上で3点ほど意見を申し上げたいのですが、1つは資料3にある重要な施設として個別に取り上げる際の基準です。7つほど項目があげられていて、ここに当たるようなものを個別にきちんと見ていこうということはよいと思うのですが、更に3つか4つぐらい項目を付け加えるべきではないかと思っています。

1つ目は、事業費が大きな施設です。市としても支出が大きいものというのは、きちんとチェックしていかなければならないので、事業費という基準があった方がよいのではないかと思います。

2つ目は、今計画をきちんと施設ごとに定めているので、その計画と実績に大きな乖離があって計画通りに進んでいかなかったり、また、計画の変更があったりしたものというのはきちんとチェックしておく必要があると思います。

3つ目は、今回の計画の中で施設評価を取り入れられていると思いますが、その評価の中で、特に物理的な側面から危険であるとか老朽化が進んでいるといった判断がされている施設が出てくると思います。そういう危険な施設は、特に取り上げて、個別にチェックしておく必要があるかと思っています。

主にその3点なのですが、資料3の(7)で「その他、委員長が必要と認めるもの」と書かれており、これに集約されているのかもしれませんが、市民委員が身近で利用されている中で、「特にこの施設について、チェックしておきたい」というものは、やはり取り上げるべきだと思います。(7)の中で読み込めるかもしれませんが、各委員が必要と考えるものを委員長が認めた上で取り上げることにしても、補足であげておきたいと思います。

それから2点目ですが、この計画の中で、全体の目標が設定されていないのは少し気になっているところです。先ほど将来コスト推計の中で、事業費を想定範囲内で収めているところが優れていると申し上げましたが、そのために、市全体として何を目標にしてやっていけばよいのかというのが、目標値として設定をされていないかと思っています。

他の自治体でよくみる達成状況の管理方法としては、目標の中に事業費が収まっているのか、あるいは施設総量または総面積がおさまっているのか、という目標管理を行うのが一般的だと思いますので、そのような市全体の目標の設定や進捗状況の管理方法というものを確立して、それをこの委員会の評価の中にも取り込んでいく必要があるかと思っています。

なお、この全体評価については、毎年毎年における細かな変化は表れてこないと思いますので、計画で想定している4年ごとの計画の見直しのタイミングぐらいで、評価をしていけ

ばよいのではないかと思います。

最後に3点目ですが、先ほど斎藤委員もおっしゃっていましたが、施設ごとの個別のシートといったものがあつた方がよいと思います。自然体で何年に何をするかということは施設ごとに計画の中に落とされているのですが、それを施設単位で見たときに、「この施設の老朽化状況や保全の工程等がどうなっていて、そのうちの当該の5年間はこういうことだ」ということが分かるように、施設ごとの個別のシートも用意してもよいと思いました。以上です。

【柳澤委員長】

ありがとうございます。資料3の(7)「その他、委員長が必要と認めるもの」というのは、西尾委員がおっしゃるように、各委員が特にこれは重要じゃないかというようなことで、(1)から(6)に当てはまらないものでも、身近な施設、または非常に課題になっている施設などで各委員から指摘があり、それを委員長が認めた場合の施設というふうに、事務局からも聞いております。

それから、(8)(9)(10)といたしますか、新たに事業費の多い施設、それから進捗通り進んでない施設、それから老朽化が進んでおり非常に危険度が高い施設というのを新たに加えてはどうかということかと思ひます。これについては、事務局どうでしょうか。他の委員にもまたご意見をお伺ひしたいと思ひますが。

【事務局（佐藤主査）】

西尾委員から挙げていただいた、事業費が大きい施設、計画と乖離が出ている施設、老朽化が進んでいる施設ということですが、事務局にて提示させていただいている(1)から(7)と重複してくる施設もあるかと思ひますけども、その3つの視点も含めて、案件的には抽出していければと考えております。

【柳澤委員長】

私がかつわっている他市の全体的な目標とかについては、一般的には総合管理計画といった非常に上位の方針がきちつとあり、さらにそのエリアごとの処方箋といひますか、同じ自治体内でも少し地域によって状況が違つたりしますので、そういった地域ごとの課題や取り組みというのを示した上で、個別の計画といひますか、そういう施設におけるモデル地域とかを設定した計画の形です。

かなりマクロな視点からミクロな視点まで、結構3～4段階ぐらひで進めている自治体もありますので、そういった方策というのでも必要になつてくるのかなと思ひます。それから、西尾委員がご提案いただいた個別シートについては、これもかなりいろんな自治体で実際に進めており、施設ごとにきちつとした個別カルテといひますか、対策を含めてやつているところがあるので、それも少し参考にできるのかなと。

それから、八千代市では総量削減や床面積の削減、それから長寿命化ということは謳われている一方で、公共施設のサービスを上げていくとか、利用率を上げるとか、PFIとかPPPのような民間と連携して収益を少し上げる、当然床面積削減というのも費用の削減ではあるのですが、その収益を上げながらサービスを向上させるなどのソフト面のアップが非常に重要な部分であると思います。施設によっては、そぐわないものもありますが、少しその辺の視点も入れて、ある程度、定量的、定性的に改善を検討していくってこともあり得るのかなと思います。西尾委員、ありがとうございました。

それでは、次に阿部委員からお願いします。

【阿部委員】

確認させていただきたい事項がありまして、資料3において対象外としているものの明記がなかったので、当然とする修繕に係る案件は対象外とする。それから学校の長寿命化に関する案件は対象外とする、ということで間違いないでしょうか。

【事務局（齋藤主査補）】

その認識で間違いはございません。

【阿部委員】

ありがとうございます。

それから、こちらは「公共施設再編検討・検証委員会」ですが、公共施設の再編について検討して検証する委員会なのか、それとも「公共施設再編検討」に関する検証だけの委員会なのか、どちらですか。

【事務局（齋藤主査補）】

計画策定などのご助言もありますので、そういった意味も含めて、我々が行ってきたことに対する検証といった両方の側面を持っているというところになります。

【阿部委員】

分かりました、ありがとうございます。

評価に関してなんですけれども、個別施設計画における各種取組内容を資料2のとおり、一覧表にされたのはとても見やすくなったなど。全体感が見渡せて、とても良くなったと評価させていただきます。

次に、資料3の表記にて、実際に検討・検証委員会で検討する対象案件例における事項が2つありますが、それ以外のことについては検討・検証から外れてしまうと、市民委員としては八千代市全体がどのぐらいのボリュームの施設を持っていて、どのぐらいの負荷をかけながらやっていくのかというバランスは、実際この現場でしか分からないところなの

で、やっぱり全体的なバランスを考えると他も検討が必要で、それもやっていくべきではないかなと思っております。

市民個人が全施設の最新情報を把握しているわけではないので、これだけ絞ってしまうとちょっと難しいのではないのかなと思います。個別計画を推進してくのはとても重要だと思うのですが、先ほど西尾委員さんが言われたと全く同じことなのですが、総合計画に示しているエリアごとの計画に沿って検討されているかというのも、記載して検証を行った方がいいのではないかと思います。

お金に関しての件もあるのですが、新旧の違いというのがあって、例えば新しい地域としては緑が丘西の地域、古い地域であれば八千代台の地域ということで、地権者のイニシアチブをとるのが誰かというのは変わってくると思います。

実際新しい地域というのは、住民がどんどん開拓し、自分たちでこういう地域にしていこうよという動きがあるのですが、古い地域はある意味、既得権者で決まっちゃうのですね。

この人たちがずっと動かないと、勝手には動いていかない地域になってしまっていると思っています。最近すごく感じているのですが、八千代市にもう既得権者として入っているということは、もう八千代市がイニシアチブをとって、どんどん変えていく行動をしない限り地域が改変していかないと思うのですね。

なので、そういった意味で、イニシアチブを誰がとって動かしていくのかということを考えると、もう八千代台は公共施設の再編をしなくちゃいけない。新しい地域は、新しく作っていかなくてはならないとして、既存のやり方と全然変わってくると思うので、ここでエリアごとの計画、例えば八千代台だったら、いろいろあるものを集合させて再編させていく、新しい地域だったら足りないものを作っていくということで、エリアごとに全然違ってくると思うので、ぜひエリアごとに計画を立てて、そこに思想を持って、違うパターンで進めてかなくちゃいけないと思います。

ただ単に、ハード面を変えてくというだけだとちょっと残念な結果になってしまうような、せつかくの検討・検証委員会があるのであれば、ここをぜひ取り入れていきたいと思えます。

【柳澤委員長】

はい、ありがとうございました。

最初に検討・検証委員会、これは今までの委員会でも少し話題になっていましたが、あくまでも行政が決めて進めている内容が正しく進捗しているかの検証をするにとどまっている部分があって、「我々側が直接この計画自身をどうすべきか」ということに対してあまり関与できていないというのは、元からちょっと問題としてあったかと。

ちょっと遅れている、または予定どおりであるといったその計画自身のことに対して、「本当にこれでいいのか」ということで、口を出す本来の形にできるといいかなと。これは、

こちら側からも少し働きかけて、事務局にて少し委員会の性格を変えていくということもとおっしゃっているので、今後少し変わっていけるのかな。

あと、やはり全体の計画だけではなくて、今阿部委員がおっしゃったように、先ほど西尾委員の方からも指摘があったように、各エリアの特性など、それぞれやはり特徴があるので、そこは少しエリアマネージメント的な視点を入れていくということも当然あると思います。

各施設をどうするというのではなくて、むしろエリア全体の再配置、公共施設のここの機能がちょっと重なっている、または足りないとか、特にここは少子化が進んでいる、またはここは意外と若い世代が入ってきているので、もっとこういうサービスが要るのではないとか、それによって少しバランスを見なおしていくという視点も必要になるかなというふうに思っております。

事務局側から、今の阿部委員の発言に関して、何かあればお願いします。

【事務局（佐藤主査）】

まず検討という部分に関しましては、今までは皆さんおっしゃっていただいたとおり、進捗状況に対する評価・助言という色が強かったところではあるのですが、今回の対象事項として挙げさせていただいた案件につきましては、その案件の進捗状況にもよりますが、内容自体にもご意見いただくような形にしていければと考えております。

2点目といたしまして、「抽出するはいいけども、その他も把握する必要があるよ」ということでしたが、確かにとおっしゃっていただいたとおり、その他案件につきましても、何らかの形で一覧的な整理が必要かなという部分は感じておりますので、そこについては検討していきたいと思っております。

また、圏域ごとという点に関しましては、個別施設計画の方で、7圏域ごとに各施設の今後の方向性を整理させていただいているのですが、そこでは地域の特性でありますとか、人口の推計なんかも踏まえて検討していますが、ご意見いただいたような視点も含めて、検討していく必要があるなと感じております。

【柳澤委員長】

よろしく申し上げます。

前に私が八千代市の庁舎の委員をやっていた時に、そちらで図書館や他の公共施設を庁舎内に動かすことを説明した時に、「そのニーズが全くないから、その予定はない」と言われ、この委員会に参加したら意外とそういう可能性があるというので。庁内の連携もあまり取れていない、そもそも再編という形になってないのかなと思いましたが、そういったいろいろな施設の可能性、複合化とか再編というのは、もうちょっと広いエリアで見えないと、やはり個別の施設だけ見ているのでは、なかなかそういった試みに繋がらないし、最終的にはそういった予算の削減に繋がっていかない部分あるのかなと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは次に鈴木委員、お願いします。

【鈴木委員】

住民の意見として幾つか挙げさせていただき、先ほど西尾さん、阿部さん、柳澤委員長からもご提案をいただいておりますが、個別の施設ではなく、エリアごとの検討をしていただきたいというところがあります。

やはり、エリア的には、例えば人口急増地区と人口減少地区とを、一括りにうちの地域がされている中で、今小学校がまた2年後に増築という状況になっています。一応、現場の先生に聞くと、「増築で間に合うのかな」という不安の声もちょっと出始めているので、確かゆりのき地区の萱田南小学校のように、また新設の小学校の話が現場サイドからあがっているというところがあって、やはりエリア的な今後のビジョンを示していただきたいなどというところがあります。

今回、皆さんのおっしゃるとおりで、施設ごとのクローズアップなので、私も総合計画の委員もやっております、やはりその連携性も重要視していかなきゃいけないなどというところになっています。やはり皆さんと同じで、地域カルテとか施設カルテ、エリアのカルテを作っていたきたいというふうに思っています。

先日、習志野市の方に行きましたら、やはりエリアごとのカルテがもうすでに作成されていて、今後この地域は人口が減少する・増加するとかで、「このような対応をしていきたい」というビジョンをエリアごとに出し始めており、ちょっと驚いた中で、八千代市の方でもそのようなものをそろそろ作成した方がいいのかなと思っております。

あと、協議会も委員会もそうなのですが、一応市民側からするといつも唐突に案が上がってくるので、習志野市さんでは、毎月自治会さんと、部課長クラスが会って会議をしています。八千代市の方でも、やはり定期的に市民と話をしていくのが必要なのかなと思います。

例えば、高津でも人口減少しているのだから、防災とかの活動をとおして、今後どうしていくかというのを、行政と住民との協働といった括りでやっていかないと、住民がちょっとそっぽを向いていくという現象になってくるので、計画期間は終了しましたが、是非八千代市地域コミュニティ推進計画に則った上で、住民と話をしていく場を作ってください。その中で、例えばその施設において、「今後人口が減るから、学校も統廃合しなきゃいけないという流れもあります」というのを事前に住民の方に下ろしていくというのがないと、「2～3年後に壊します、統廃合します」と言われても、住民はちょっと拒絶反応しちゃうので。

この前も市民委員の件があったのですが、事前に市民を育てていくというシステムを作っていたかないと、行政と喧嘩するだけの住民になってしまうのは、ちょっと僕は避けたいので、「行政もこういう悩みがあるの」というのを訴えていく、話をしていく場を作っていた方がいいと思います。

あと施設の減少ということで、多分公共施設の担当として、面積が減るということは、とてもいいことだというふうに解釈されるかと思うのですが、今回うちの高津緑が丘地

区で高津支所の廃止ということで面積が減るのですが、逆に今度駅前地区の方にて、賃貸で確か事務所が入るかと思うのですけども、そのような賃貸借の費用が増加しますということで、やはり隠れた経費が今後、発生するのかなと。

一応、民間施設に入るは別にいいのですけど、トータルの経費が下がればいいのですが、結局トータルで費用がまた上がってしまうといった話になると、本末転倒かなと思います。

一応今回、緑が丘支所と高津連絡所を設けるといって、結局、多分両方に賃貸料払った上で、職員を配置することになるので、費用負担が逆におそらく今回増えちゃうのだろうというふうに思っているんで、それが結局、公共施設の面としては、解消するのならいいのだろうけども、結局予算がどんどん使われちゃうっていうことではちょっと意味がない。トータルパッケージを考えていかないと、本来の目的は全然違うかなと思います。

あと何回も言うのですが、やはり市民委員をいきなり裁判員制度のように「いきなり抽選であなたです」というのをやめて欲しいなと。市民を育てていくというのを今後、トータルで考えていくことを挙げていただきたいと思っています。

あとは、個別に緑が丘地区の人口増に合わせた公共施設の再検討をお願いしたいと思っています。うちの緑が丘地区の住民は、本当中学校に関してはかなり喫緊な状況なので、文書ではいつも出てくるのですけど、今後はやっぱり協議という形で、具体的にどうしていくのかを、いい加減ちょっと教えて欲しいというところになります。

【柳澤委員長】

ありがとうございます。地域ごとには少し考えていく。もうちょっと住民主体で、まちづくりを考えるとというのは、非常に重要なポイントだと思います。

今松戸市とかで公共施設再編の委員をやっていますけども、松戸市なんかではもう地域ごとにある程度そういったまちづくりのビジョンというのを出しながら、行政も少し援助はしますけれども、住民がある程度主体的に動いて、「この施設をどうするか」というのを住民自身がいろいろ議論して決めていくみたいな動きにはなっています。

最初は少し、なかなかうまくいってなかった面もありますけども、やっぱり長い年月をかけてその地域のリーダーのような方も育ってきて、あと大学の先生とか専門家も入ったこともありますので、もうちょっとそういった動きになっていくこともあり得るかなと思います。

それでは次、那須原委員お願いします。

【那須原委員】

まずは、こういったオンラインでも、会議が開かれたことに大変感謝しております。素晴らしいことだと思います、ぜひ他の委員会でもやってください。私が他に入っているところは全部書面で全然進みませんので、ぜひ庁内で広めていただけたらと思います。

有識者の方などが言われたことと被る内容は省きまして、1つは、資料1の26ページに、

「市民と一緒に考える」と書いてあるのですね、最後に少しだけ。本当に少しだけ書いてあるのですが、残念ながら具体策が見えない。「これ書いとかないと通らないよな」といった感じで、つけ足したように見えるのです。事務局から具体的にお答えいただいた中で、ある程度ワークショップや地域説明会を想定しているとのことですが、是非そのところは、もう少し書き加えてないとちょっと余りにもひどいのかなという感じがします。

それから、個別施設計画にて、10年以内と11年以降という表現がかなり散見される中、本計画が4年ごとに見直されるというお話が先ほどからありましたけども、4年と10年というのが、ちょっと合わないなど。だったら8年だろうという感じがします。10年だと3つ先なのかという感じがするので、やっぱり2つ先なのか、今回なのか次回なのか、3回目なのかというのと、やはり合っていた方が見る側としては、とっても分かりやすいのかなと。10年というのは、前の5年の名残だと思うのですが、そこやっぱ書き換えていただいた方がいいのかなという感じはしました。

それから、細かい話で、跡地活用というとその土地だけに見えます。例えば小学校が統合した時に跡地活用が出ていますけども、土地だけじゃなくて施設をちゃんと活用するとお答えをいただいています、それは表現として、もう少しわかりやすい表現にさせていただいた方がいいのかなと思いました。

あとは、先ほど阿部さんからも出た検討・検証委員会の運営方針ですけども、立てた計画が「100%進捗しています」と答えたことに対して、確かに「100%進捗していますね」というのを検証する委員会だと思っています。そのような説明も受けたし、そう思っていたけども、今回少し広げるというお話をお聞きして、それはとってもいいことだなと思います。

ただ、検討・検証委員会の位置付けが、以前と変わっているのかどうか、いわゆる上位機関で変わっているのかどうか分からないと、我々だけの範囲の広がりだけで、実は上に行ったら「検討・検証委員会は検証委員会だろう」と言われてしまうと何のために意見出したのかが分からないので、是非それぞれの委員会などで、ちゃんと認知されると非常にうれしいなと思います。

それから、公共施設の大半は教育施設ですよ。そういうデータが示されていると思いますが、教育施設をお金(維持管理費)だけで切るというのは問題だと思います。説明がお金、お金、お金となっているので、課題そのものを市が言っているという感じがします。今教育はお金で決まるみたいになっていますよね、教育格差はお金で決まる、収入で決まると言われていますけども、やっぱり教育施設は子供や若者への投資です。一人ひとりの投資として、一番効果的な投資なので、そこを、お金がかかるからやめるというのは、投資をやめること、未来を消すということになります。

「教育施設は課題としてある」と中に書いてありますけども、説明を聞いていると、教育施設が半分以上占めていて、でもお金がかかるから統合縮小していくという市の説明は教育を管理できてない(重視していない)と聞こえます。「今の世の中の一番の問題をお金で

決めちゃうのね」ということなので、その説明を少しすべきかと感じました。

すいません、事前シートには書いていなかったのですけれども、聞いていて感じましたので、発言させていただきました。

【柳澤委員長】

ありがとうございました。

最後のご指摘、事前のシートにはご発言されてなかったと思いますけども、私も結構教育施設に関わることが多いので、非常に重要なポイントかと思います。実質上、公共施設の半分以上が、八千代市だけじゃなくて、ほぼ全国の自治体で、学校、特に小中学校であるというということです。それに関しては、確かにそこを削減する必要があるのでしょうか、やはり、幾ら子供の数が減ってきたとはいえ、そこを廃校にしたりするとその地域自身がなくなってしまうということにもなります。いろいろな自治体で、「単に面積減らせばいいのか、ある程度うまく他の施設とも融合しながら利活用を図っていくのか」といった試みをしています、非常に大事な問題かと思います。

先ほど、ソフト面が少し弱いじゃないかということをご指摘させていただきましたが、その公共サービス自身をもうちょっと向上させるとか、利用率を上げていくとか、その辺も非常に重要だと思いますし、学校なんかですと、利用率よりも高いクオリティや機能を維持しながらも、何かうまくコストを下げっていく方針ということも考えなければいけないと思いますし、複合化してくというのも一つあると思います。

そういう意味では、少しその辺は慎重に計画を検討していく必要があるかなと思いますが、事務局で何かその辺はありますか。

【事務局（齋藤主査補）】

おっしゃるとおりで、一応個別施設計画の概念としては、今持っている延べ床面積の総量の6割近くが教育施設であり、もうすでに整備されている床があるという状況の中でそれをうまく有効活用していきたいということで、個別施設計画の今後の方針にて、「学校施設への集約化・複合化」というのを考えながら、結果として「総量削減に繋がれば」というのが、思いとして書いてあるのですけれども、計画の説明だでの順番にて、最初にコストのことを結構しっかり謳わせていただいているので、確かに誤解を生む部分があるかなと思います。

改定の際とかにたてつけも考えながら、工夫していこうかなと思います。

【柳澤委員長】

以前であれば、学校の空きスペースを他に転用していくことに、いろいろ制約がありましたが、今はかなり柔軟になってきている部分があるとは思いますが、私自身も結構、学校の空いている部分を、他の公共施設に転用した事例、そういったものに関わったりしています。

あとは廃校になった学校も完全に売却したり、更地にしたりするのではなくて、もうちょっと市民が利用できるような施設にうまく転用していくとか、あと体育館とか音楽室とか図書館は、そのまま地域の方が利用できるようにしとくという。空き教室は、地域のサークルなどに貸し出すみたいな、そういう事例もあると思いますので、さっき言った跡地活用というのも、跡地を全く違うものに変えてしまうということではなくて、その地域コミュニティに貢献する施設に変えていくとか、あと学校の機能を残しながらも、うまく他の施設を集約させていくということもあると思います。

その辺はまた個別施設計画の中で、いろんなモデルを作っていければいいのかなというふうに思っています。那須原委員ありがとうございました。

【那須原委員】

ちょっと追加ですいません。

学校教育だけをいっているのではなくて、やっぱり社会教育であったり、地域教育だったり、生涯学習という考え方もあるので、その範囲の中であの施設をどう使っていくかという視点を是非とも入れていただいて説明していただくと、内容がわかりやすくなると思うのです。だから「学校施設をこうやっていくのだよ」というような説明があると、わかりやすくなるかと思っていますので、ぜひそういう改革にしていただけたらと思います。

【柳澤委員長】

学校教育だけじゃなく生涯学習の場と捉えれば、地域の大人や高齢者も、何か利用できるということは、当然そういう教育的な目的に達すということかと思えます。日本の場合、どうしても「学校は学校教育の場」として、何かあんまりそれ以外を受け入れられない体質がありますよね。

地域の方が土日に体育館だけ利用するぐらいがせいぜいなので、だからそういう意味では、もうちょっと施設を有効に活用する方針というのも考えなければいけないのかなと思います。

ありがとうございます。それでは最後に成富委員、お願いします。

【成富委員】

いつも八千代市を支えていただきありがとうございます。快適に暮らしています。

事前シートにないこと、かつ、ここまで皆さんがお話しされていることをスキップして、あえて市民としてコメントさせていただきます。

なぜ今回市民委員で参加したかという、「八千代市が何をしているのかな」とか、「どんなことに投資しているのかな」とか、「どんな未来を描いているのかな」といったことを知りたくて、参加させていただきました。

そこに関しては、皆様からご意見があったように、非常に詳細にわたって、多くの計画を

苦勞されてつくられて進められているのだなと思う一方で、書面での開催やこのテレワークミーティングでの状況を拝見して思ったことは、形式的・儀式的になってないかなというのは、若干感じました。

そこから落とすところとして、市民としてどんな期待値があるかとなったら、間違いなく、先ほど那須原さんおっしゃられたように、「分かりやすさ・スピード感・具体性」の3つなのかなと思っています。

この委員を私より長年やられている方々も、分かりにくいというコメントがあるということは、市民には決して届かないという意味だと思っていて、私がこの市民委員として構えてみたとしても、分かりにくかったなと思う点が多々あると思っています。

先ほど、皆様がおっしゃられたように、定期的に月次で設けるなり、何かしらのコミュニケーションが今後発生することによって、皆さんでまちを作れると思っています。

そこを意識して、無作為に多くの方からのコミュニケーションを経て、インプットをもらって、進化させていくというところの意図があると思うので、今日の意見はすごく貴重ななと思っています。

まずそれを踏まえた上で、バランスを取ることはめちゃくちゃ難しいことは理解しているのですが、バランスを取り、分かりやすくコミュニケーションをしていって、具体的にスピード感を持ってやっていただくというところは、間違いなくいいまちづくりに繋がると思っています。

今回参加して、こんなにも多くのことを検討されていて、動かされているところに驚く一方で、おそらくその情報量のためにコミュニケーションが難しくなっているというところがあると思いますので、先ほど西尾さんがおっしゃられたように、ゴールとビジョンを明確に打ち、ベンチマークとマイルストーンはこんな感じといった形で進めていったら、市民の皆さんも納得いただいた上で、実際、市民やこの委員会というものは、適切にレビューができると思いました。

【柳澤委員長】

ありがとうございました。

それでは、大分時間も押している感じがありますが、改めて、何かご意見やご質問等があれば、はい、阿部委員お願いします。

【阿部委員】

実は私、4～5年、このまちづくりに携わってきて、ちょっと実感していたのですが、市民は結構言いたいことを勝手に言うので、委員会とかに参加してみると「ああ、なるほどね」と勉強しながら、市民が育っていく感があったのですね、この4年間。

なので、次は株式会社や自営業であったりとかという中で話を持っていくのですが、公共施設だとか市の方の行政というのは、そうではないところで、ものすごくいろんな法律

などを鑑みて、いろいろ調べながら進めていくというのも、やっぱり委員会で知ったことでした。

あと、私は商業ビルの物件とか持っているのですが、普通の人よりはちょっと建物には詳しいとは思いますが、やっぱりPFIだとかそういった言葉を新たに聞いて、「そういう仕組みがあったのね」と勉強しながらやっているのですね。

なので、市民は結構、勝手なことを言うのですが、行政は強い意志を持って、行政のプロですから、「こうこうこうなのだよ」と教えていくシーンもやっぱり必要だと思います。

そういった意味だと、この後多分意見聞かれると思うのですが、こういった会をやる前提で、これから市民委員を選ぶという話をすると思うのですが、前提条件として足並みをそろえなくていいのかなというのはちょっとありますね。

「行政もこういうことをやっているよ」とか「市民はこう思うよ」といった意味で、「市はこうやっているのだよ」といった勉強会が1個もなく、これがいきなり始まっているので、ちょっとハードルが高いのではないかなと。あと、プロとして、行政がどういうふうに行っているというのはやっぱりちょっと意見が欲しかったかなと思います。

ちょっとすいません、そこだけ言い忘れたので、プロの意見として頂きたいなと思いました。

【柳澤委員長】

ありがとうございます。ちょっと私、地元ではないのでよく分からないのですが、何かこういう委員会以外に、市民向けのイベントといいますか、まちづくりとか、ある特定の施設の勉強会とか、あんまりないのですかね。八千代市ではそれほど、そういった意見交換会のようなものはない。

おそらく、個別のそういう計画の時に、説明会とか住民説明会とかはあると思いますが、他の自治体だと結構やったりすることがあって、僕も講師で呼ばれたりとかするのですが、あんまりないのですかね。なんかそういうのがあると、興味ある市民の方は、時々参加したりできるのかなと思いました。

例えば、今市原市庁舎の建て替えの計画が動いているのですが、それに関しても、「市全体の行政どうする」みたいなワークショップを何度かやったりしたのですが、その時も、こういったオンラインでワークショップとして、高齢者の方はなかなか慣れないので、市役所に来て、市役所の方がアシストしながらこういったオンライン会議をやったりしたこともありましたし、もう少し幅広く市民に呼びかけながら、施設やエリアのことについて議論できるような場があれば面白いかなと思いました。

他に何かご意見ありますでしょうか。

【鈴木委員】

一応今回で僕たち終わりということでいいですね。継続はするのか、その辺は事務局どう

ですか。

【事務局（佐藤主査）】

現在の委員さんの任期が6月までとなっており、2年間の任期ということで一旦、満了ということになります。

【鈴木委員】

次年度以降はどうするのですか。

【事務局（佐藤主査）】

市民委員さんにつきましては、今、市全体として無作為抽出という形があるところですが、それとは別に違う選び方も可能ということで、そこについてはこれから検討していく段階でございます。

【鈴木委員】

一応、阿部さんとも話をした時に、年度の終わり頃に、他の委員会さんも結構突っ込んで会議をやってくるので、事前に、例えば上期に説明会をやっていただいて、そうするとみんな説明を聞いた内容で今度施設を見始めるので、住民も。

後半でいきなり会議をやってしまうと、米本小学校がどこにあるのかわからない市民さん結構多いと思うので、僕たちはまだ興味があるから、「ああ、あそこか」みたいな感じで分かるのですが、上期で例えば「このようなことをやっているのですよ、八千代市」といった説明会から始まって、また夏頃に各委員さんのワークショップみたいな形をやっていただいて。先生とか西尾さんとかいるので、そういう方々がいないと、市民も育てられないので、そういう会議を夏ごろやって、12月から1月にかけて、まとめみたいなワークショップがあると意味があるのかなと。いつも、毎年こんな感じでやると、僕たちが意見しても、「どこで反映されたのかな」と、ちょっと分からないで、もやもやして終わっていたので、やっぱり市の他の会議に参加している方々、このコロナで消化試合、不完全燃焼が多いので、やはりもうちょっと行政と対話したい。

渡邊課長さんの意見もお聞きしたいのだけど、やはり行政と市民委員という壁があって、なかなか、多分悩みがあるのでしょうかね、そちらもね。そういうところを聞きたいのと、回数を増やして欲しいと思っています。一応、それを次年度にやっていただければと思います。

【柳澤委員長】

こういう検討委員会で何か個別の地域の問題について、あまり深掘りができない部分あると思うのですが、先ほど言った、例えば松戸市でやっていたケースだと、特に話題になっている公共公民館がかなり老朽化して、その施設のエリア全体をどうすると。その小金

原地区は、その地区の中でまちづくりのワーキンググループのようなものがあって、それに東大の委員の先生も1人入り、そこでいろいろ議論をして。そこでどうなっているかということが、この検討委員会に上がってきて、そこでまた助言をして、またそれがワーキンググループの方に降りていく、そういうやり方をしていました。

なので、例えば、今回あがっている市民活動サポートセンターとか、米本小学校とか、そういう地域の個別の問題は、そこに関係する市民の方や有識者のワーキングのようなものがあって、そこで議論されている内容が、一部、上位の検討委員会にも上がってきて、そこで何かまた意見を言うといった方がより効率的なのですかね。先ほど言ったように、あまりその地域と関係ない市民が委員に無作為で選ばれても、「あまりそこをよく知らないから」ということで、あまり真剣に議論しないで変なデシジョンを出しても、問題があると思いません。

計画自身を見直していくという、今までのこの委員会は、何か行政がやっていることを、ただ「ちゃんとやっていますね」というのを承認するだけで、あまり意味がないというのがあり、それが少し変わってくるということはいいと思うのですが、より課題解決型というか、提案型になるのであれば、その実際の案件について少し深掘りできないと適切な助言ができない部分があるので、何かそこら辺の仕組みも同時に検討いただいた方がいいかなと思います。

市民の選び方ということもありますし、それはそれとして、もうちょっとその対象になっているエリアに関しては、そこでもうちょっと議論ができるような仕組みを作るということもあり得るかなと思います。

【阿部委員】

今言われたことが、とても重要だと思うのですが、八千代台のエリアで協議会というのがあって、実は市民の人たちに「再編に関してどう思うか」というワークショップを開いたのですが、地元の住民と年寄りが多いと言ったら申し訳ないのですが、まずワークショップが何かかわかっていないところから始まって、年配の人たちは市役所に攻撃すれば何とかなると思っているところがあって、とにかく攻撃をする。「八千代市は何をしているのだ」の一辺倒で、「俺はこう思う」みたいなことばかりで進まなかった。

なので、住民が無作為に選ばれることの恐怖感というのはものすごく出ると、あと、住民というのは、他の事例を全く知らないの、今、満足しているという感覚は絶対あると思うのですね。

なので、どうやってその意見を、個々が持っている素晴らしい意見を吸い出すのかというのは、相当至難の伎だと思います。まず、いいよねと思う他市がやっている事例を示していかなくてはいけないことから始まって、そういった攻撃をする人達を、市役所の人たちはうまくかわして行って、まとめて吸い上げる。多分、「何年かかるかな」と思うぐらい市民の意識改革をまずしなくちゃいけないところがあるので、市役所の人たちに頑張っていただ

きたい。ちょっとここ1年ぐらいで那須原さんと一緒にワークショップとかやっていたのですが、相当ハードル高いなという意見はありますので、市役所の人頑張ってくださいという感じです。

【柳澤委員長】

そういうのがあるから、何となく「もうこれが決まりました」みたいな、なるべく逃げの姿勢になっちゃうというのは、それはどこの自治体も当然あって、さいたま市さんとかだと、住民のグループに、その施設の統廃合の裁量権を渡すみたいな自治体もあるのです。

その住民の中で、いろいろ相談して、いろんな施設を見て回って、「やっぱりここを廃止だね」みたいに言うと。そこの既得権者からまた反発が出て、住民同士の戦いみたいな。

行政がある意味、そういう住民に責任を押し付けるみたいな。「住民が決めたのだから、私たちはその決定に従います」みたいな。それもそれで住民主体とはいえ、今度は住民同士のいろんな対立に繋がっている部分があるので、なかなか難しい。行政対住民にしといた方が、住民は気持ち良いのでしょうか、何かそこが難しいところかなと思います。

何か事務局、何かありますか。

【事務局（齋藤主査補）】

先ほど柳澤先生と他の委員の方からもいただいたのですが、来年度に具体的な跡地活用とかに関しては、そのワークショップをやろうと考えているところです。

そこで、地域地元の方などとお話した内容とかを、また委員会の方に報告させていただいて、「こういう進捗をしていますよ」とか「こういうところで今、協議・検討を行っています」というような形で、ご意見、ご助言、また評価いただければと考えております。まだ他の自治体と比べて、どの施設でもやっているというわけではないのですが、何かその大きい方向性を決める際や跡地活用というところで、その敷地自体であるとか、既存の建物自体の行く末を考えるとときには、一応そういう仕組みも取り入れながら検討を進めていこうと思っておりますので、そのような状況であると認識していただければと思っております。

【柳澤委員長】

ワークショップも取り入れていくというような、具体的な計画なわけですね。

【事務局（齋藤主査補）】

そうですね、次年度以降の阿蘇地域・米本地域の小学校の跡地活用に関しては、まずワークショップを開催しようと考えております。

【柳澤委員長】

なかなか修羅場になる可能性もありますし、私は今、佐倉市が新しく作る図書館のワークショップとか、その計画にちょっと関わっているのですが、かなり大変ですよ。今の図書館をつぶして新しい土地に新図書館を作って、そこにいろいろな他の機能も複合するみたいな時は、かなりの反対派がもう全部ワークショップに入ってきて、そもそも論で展開したら大変なことになりましたけど、いろいろそういう意味では。

【成富委員】

八千代市から広がってしまうかもしれませんが、これ多分、自分事になると絶対に自分のエリアの話しかしないと思うのですね、知っているエリアは。

今、柳澤先生がおっしゃったように、何かロールモデルみたいなケースから八千代をどうやっていくかという考え方も必要だろうし、「実際、バランスは」ということも必要だと思うということになった時に、市民委員としての期待値と、やることと、八千代市としてやることと、ロールモデルというものは、先程西尾さんと那須原さんもおっしゃっていましたが、何かもっとビジョンとして掲げる。何か犠牲、スケープゴートを作らないと、柳澤委員長がおっしゃったように、絶対に住民同士の激突しかないだろうなというのは、今から容易に想像できるなと思いました。

柳澤先生、何かこうロールモデル的なものは地域にあるのですか、いろんなところに。

【柳澤委員長】

ガイドラインとか、ある意味、こういうふうに沿ってやりますよというのであれば、何か個別で検討しているとやはり一貫性がなくなることもあるので、そういう意味では、少しその大きな方針といいますか、それをきちっと決めることも大事ななと思いますけども。

はい、西尾委員。

【西尾委員】

先ほど柳澤先生がちらっとご紹介されたさいたま市の事例については、私も当事者として関わっていたのですが、やはりワークショップの作り方に工夫が必要かなと思っております。先程阿部委員もおっしゃっていましたが、ある程度、前提条件をそろえていくことが大事なので、ワークショップのテーマ自体は個別の施設の話だとしても、その総論として、市全体として「今こういう状況で、こういうことになっている」ということを、勉強するようなパートを設けた上で、その中でこの個別施設のポイントごとに検討していくという、各論に入っていく組み立て方をすれば、一貫性の確保で繋がってくると思います。

また、さいたま市の時に工夫したのは、やはり地元の人だけで話すと、どうしても個別の利害にとらわれがちになってしまうので、そのワークショップのメンバーに、私達は市民には三通りあるといっているのですが、個別の利害の当事者である「受益者市民」だけでは

なく、ある程度市全体の観点から、「納税者市民」の観点から意見が言えるような、その地区以外の市民に入っていただくことが重要です。

それからもう一つ、「経営者市民」と言いますが、ある程度この公共施設のマネジメントということに理解がある、市民委員としてこうした委員会などで経験を積まれている方にも入っていただいて、市の経営という観点から見るとどうなのかという意見も入れていく。いろいろな視点・立場を組み合わせるワークショップをやっていくということで、ある程度落ち着いた議論にすることに繋がっていくかと思います。

【柳澤委員長】

そういう意味では、その市民でもいろいろあるので、私も木更津市役所のことをやった時は、市民の方で、地元の建設会社、やはり建築とかにも詳しい方の市民が入ってらっしゃったので、かなり技術的なことに対しても、いろいろ客観的なアドバイスをしてもらいました。

ですので、市民自身が半分有識者的な役割をも持って、いろんな観点それぞれ財政的、経営的な観点とか、ハード面やソフト面でのアドバイスができるような方に入っていただけたってこともあります。

そのへんも、市の方でそういった候補の方を、通常の市民と別に入れるということもあるかもしれないですけど。

時間が押し、終わりの時間になってきますけど、何かこれだけは言っておきたいとか、あれば、よろしいですか。

それでは一旦、これで意見交換は終わりたいと思います。

本日の議題について、委員の皆さんから様々なご意見をいただきましたが、一応、その総括、今日いろいろ意見が出ましたので簡単に総括できるという部分でもないと思いますが、まず、今後の方針として、資料2の個別施設計画における各種取組内容ということで、一覧的に施設全体の進行状況を把握できるようにして、全体的な評価を行うようにするというのを、大きな方針として立てたいと思っております。

それから、2点目としましては、その中で個別に取り上げて助言を行う、この対象になるような施設について、資料3に挙げた(1)から(7)に加えて、西尾委員にご提案いただいたような事業費の話や計画通り進んでないもの、危険度の高いもの、そういうものも含めて、個別に取り上げる施設をしっかりと出しながら、それに対して助言していくという仕組みにするということですね。

それから、3点目としては、その面積の総量とか総事業費の推移とか、こういった視点については少し変化していくこともあるので、一定期間ごとに見直す必要があるということで、例えば数年ごとの計画の見直しの際に評価を行うことを検討したいと思います。

その三つの大きな方針と、あとは先ほどの市の全体的な方針やガイドラインというものを、しっかり示した方がいいという視点、それからもうちょっとエリアごとのビジョンを明確にしていく。

その辺も踏まえながら、今後、八千代市の公共施設の再編をしていくというような方針にしたいというふうに思っておりますが、大ざっぱにそういう方向でよろしいでしょうか。

【委員一同】

(頷く)

【西尾委員】

今回の委員会でも市民委員の皆さんから、かなり活発にご意見いただいたと思いますが、やはり市民と一緒に進めて協働していくとか、「市民を育てていく」というキーワードもありましたが、そういったところはかなり重要であると思いました。

【柳澤委員長】

その住民の方の勉強といいますか、もうちょっと学べるような形にしておくことも含めて、もう少し住民主体の計画になるような仕組みを取り入れるということもあるかなというふうに思います。

それでは、本日の総括の内容と委員の皆様からいただいた意見を参考にしながら、今後の委員会の運営に生かしていきたいと思えます。

以上で、本日の議事はすべて終了になります。本来であれば今後また同じメンバーでこういう体制でやっていくのがいいのかなと思えますが、また変わってしまったら、今回いろいろ出た意見をうまく取り入れながら元に戻らないように、そこはうまく事務局にハンドリングしていただきたいと思えます。

以上で本日の議事はすべて終了となります。

長時間にわたり、議事の進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。

事務局から何か連絡事項はありますか。

【事務局（渡邊課長）】

本日は、公共施設等個別施設計画に位置付けました取り組みの進捗管理や評価方法について、ご議論いただくとともに、公共施設の総面積であるとか、その事業費の推移を含めた全体的・総論的な視点による検証の必要性のほか、エリアごとのまちづくりの方向であるとか、さらに所謂、人づくりなど行政全般にわたると思われる幅広いご意見・ご提言をいただきました。

これらを踏まえまして、未来を見据えた最適な公共サービスに向けまして、庁内連携をさらに深めつつ、事務局といたしましても、さらに検討を進めて参りたいというふうに考えております。

冒頭の部長挨拶にもありましたが、今回をもちまして現委員の皆様任期では、最後の会議ということになります。

八千代市公共施設再編検討・検証委員会の柳澤委員長はじめ、委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、2年にわたり、本市における公共施設の再編等に関し、貴重なご意見・ご提言等をいただき誠にありがとうございました。

本日いただきましたご意見を踏まえまして、本委員会の今後の運営に取り組んで参りたいと考えておりますので、これからもご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、お礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

【柳澤委員長】

今日はどうもありがとうございました。またこういうオンラインを今後も有効に活用しながら進めていっていただければと思います。

【事務局（糸賀主任主事）】

今後の予定は、事務局で今回の議事録の案を策定します。その後、本日から概ね1週間後に各委員様に電子メールで送付させていただきます。

そして、皆様のご確認の後、概ね本日から1ヵ月以内に議事録を市ホームページにて公開させていただきますので、ご了承をお願いしたいと思います。

また参考資料1のとおり、次期の市民の募集を予定しているところです。

1点だけ申し添えさせていただきますと、そちらに、「無作為抽出で選ばないと市民にならないの」という部分があるのですが、こちらは無作為抽出に選ばれなかった場合においても、同意書を提出していただければ、名簿に登録できるという形になっております。何か疑問点等がありましたら、事務局の方にご連絡くださいますよう、お願いいたします。

最後に本日の謝金ですが、前回、昨年9月に書面開催した際と違う振込先の口座を希望される場合は、ご連絡をお願いします。

本日はご参加いただき、ありがとうございました。